

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-2-3	事業名	札幌市一般廃棄物処理基本計画の改定
担当	環境局環境事業部企画課 須田 TEL 211-2912		
全体計画			
事業内容	【平成19年度】 平成17～18年度にかけて開催した札幌市廃棄物減量等推進審議会からの答申を踏まえ、一般廃棄物処理基本計画(以下、「さっぽろごみプラン21」という。)の改定を行う。 【平成20年度～】 新たに策定した「スリムシティさっぽろ計画」に基づき、資源化できるものの新たな分別収集や処理施設での検査体制の強化、安定的な処理確保のための施設整備など施策・事業を積極的に展開していくとともに、その進捗状況を外部組織によって評価し、さらなる事業の推進に反映する。	＜年度別の事業内容＞	
		【平成19年度】 一般廃棄物処理基本計画の改定を行う。 【平成20年度以降】 新たな計画である「スリムシティさっぽろ計画」に基づき、家庭ごみ有料化と併せてごみ減量・リサイクル施策を実施していく。	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(決算)	
	平成19年3月に出された答申に基づき、札幌市一般廃棄物処理基本計画「スリムシティさっぽろ計画」(素案)を策定し、同年9月に公表した。素案公表後、以下のことを実施し、市民意見を伺った。 ○パブリックコメント ・実施期間:平成19年10月22日～平成20年1月21日【90日間】 ・意見件数:473件(意見提出者数:90人) ○市民意見交換会 ・実施期間:平成19年10月11日～平成20年2月10日 ・開催数:223回(各地域:203回、各区民センター20回) ・参加人数:8,215人 ・意見件数:8,584件(意見提出者数:3,696人) ○市民意識調査 ・対象者:札幌市全域の20歳以上の男女1,500人(層化2段無作為抽出法) ・調査期間:平成19年12月6日～12月24日 ・回収数(率):1,184件(78.9%) これらで寄せられた意見とタウンークでの発言や「市民の声」で寄せられた意見を踏まえ、計画の内容を変更・追加し、平成20年3月に計画を確定した。	「スリムシティさっぽろ計画」の周知や同計画に掲げた目標の実現に向け、以下の事業などを行った。 ○新たに策定した「スリムシティさっぽろ計画」を印刷・配布し、ごみ排出ルール説明会などの機会をとらえて市民に対し周知を図った。 ・スリムシティさっぽろ計画本体印刷部数:4,000部 ・スリムシティさっぽろ計画概要版印刷部数:61,500部 ○21年7月からの新ごみルールの説明会を21年1月から実施した。 ・ごみ排出ルール説明会総予定開催回数(20.11～21.6):2,500回(予定) ・20年度ごみ排出ルール説明会開催回数(20.11～21.3):909回(実績) ○地区リサイクルセンターの設置 ・中央地区リサイクルセンター(11/15開設)、資源物回収量:7,154kg ・厚別地区リサイクルセンター(1/14開設)、資源物回収量:1,783kg ○ごみステーション管理器材購入助成数 ・ネット:8,300件 ・カラスよけサークル:2,400件 ○リサイクルパートナーシップモデル事業 ・参加グループ:3団体、348世帯 ○雑がみ分別収集モデル実験事業 ・世帯:12,000世帯 ・総回収量:32,700kg ○さっぽろごみパト隊 ・配置人員:14名(各清掃事務所2名)	
	平成21年度事業内容(決算)	平成22年度事業内容(決算)	
	「スリムシティさっぽろ計画」に掲げた目標・施策の実現に向けて、以下の事業などを行った。 ○新ごみルール関連 ・住民説明会の開催【開催回数:1,783回(4-6月)、2,692回(全体)、参加人数:85,135人(4-6月)、130,260人(全体)】 ・ごみ分けガイド、収集日カレンダー、お試し袋の全世帯配布 ・早朝啓発の実施(7月1～10日)【従事者:約6万人(市職員:約5千人、町内会・クリーンさっぽろ衛生推進員:約5万5千人)】 ・家庭ごみ有料化、「雑がみ」枝・葉・草の収集の開始など ○生ごみリサイクル・パートナーシップ事業 【参加団体:10団体、744世帯】 ○集団資源回収奨励金(実施団体)の増額【2円/kg→3円/kg】 ○さっぽろごみパト隊の配置【4月時点:60名、7月以降:110名】 ○ごみステーション管理器材購入助成 【ネット:4,276枚、カラスよけサークル:4,562件】 ○ごみステーションの分離促進 【H20年度末:34,747カ所→H21年度末:37,125カ所】 ○大規模事業所の対象範囲拡大 【減量計画書提出事業所数 H20:777カ所、H21:4,087カ所】 ○「ごみ減量・リサイクルに対する行動・意識の変化等」に関する市民意識調査の実施【調査期間:11月20日～12月7日、回収数(率):1,270件(84.7%)】 ○札幌市廃棄物減量等推進審議会(第6期)の設置 【開催回数:2回(11月、2月)】 ○平成22年3月末をもって篠路清掃工場の運転休止	「スリムシティさっぽろ計画」に掲げた目標・施策の実現に向けて、以下の事業などを行った。 ○スリムシティさっぽろ計画推進 ・札幌市廃棄物減量等推進審議会(第6期)の開催【開催回数:2回(8月、11月)】 ○生ごみリサイクルパートナーシップ事業 【参加団体:10団体、748世帯、回収量:55t】 ○ごみステーション管理器材購入助成 【ネット:3,338枚、カラスよけサークル:3,938基、箱型ごみステーション:1,310基】 ○さっぽろごみパト隊の配置 【配置人員:90名、個別指導:13,314件、ステーションパトロール:1,963,710件】 ○ごみステーションの分離促進 【H21年度末:37,125カ所→H22年度末:39,357カ所】 ○平成23年3月末をもって篠路清掃工場を廃止	
規模			
件数			
等			

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-2-3	事業名	札幌市一般廃棄物処理基本計画の改定				
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
計画の改定	—	改定	推進	推進	推進	改定 (19年度)	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加</p> <p>○ごみステーションの管理については、「札幌市ごみステーションの設置及び清潔保持等に関する要綱」により、「(市民)自らごみステーションを管理する。」と規定しているが、市民が行うごみステーション管理を支援するため、ごみステーション管理器材の購入助成やごみパト隊によるごみステーションパトロール・ごみ排出指導を行った。</p> <p>■企業等との連携・協働</p> <p>[資金協力]該当なし [人材協力]該当なし [情報協力]</p> <p>○共同住宅と戸建住宅が共用しているごみステーションで利用状況が悪い地域については、町内会、共同住宅のオーナー、管理会社などと協働し、改善に向けて取組を行い、必要に応じてごみステーションの分離促進を行った。</p> <p>[その他の協力]</p> <p>○本市は、家庭ごみ処理手数料の徴収にあたっては指定袋制を採用していることから、コンビニ、スーパーなどの小売店を指定袋取扱店に指定し、指定袋の販売、手数料の収納事務を委託した。【H22年度末:1,994店舗】</p> <p>○本市は、レジ袋を削減し、マイバッグなどの持参を促進するため、「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」を事業者、市民団体と結び、三者協働によるレジ袋の削減に努めた。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <p>○市民自らによるごみ減量・リサイクル活動を支援するため、以下の取組・支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみステーション管理器材や電動生ごみ処理機などの購入助成 ・生ごみ堆肥化セミナーやリサイクルプラザ宮の沢及びリユースプラザでのイベント、教室、講座などの開催 							
評価(成果)			課題				
<p>○平成22年度においても、「新ごみルール」による大幅なごみ減量効果は継続し、「廃棄ごみ量(全体)」、「焼却ごみ量」及び「埋立処分量」の減量目標については、「スリムシティさっぽろ計画」に掲げる平成29年度までに達成すべき最終目標を達成した。</p> <p>【廃棄ごみ量(全体)～対16年度比30%以上減のところ40%減、 焼却ごみ量～対16年度比24万トン以上減のところ26.4万トン減、 埋立処分量～対16年度比30%以上減のところ52.4%減】</p> <p>○平成22年度の焼却ごみ量は最終目標を達成したことから、平成23年3月末をもって篠路清掃工場の廃止を決定した。</p> <p>なお、篠路清掃工場廃止に伴う経費節減効果は、新清掃工場の建設費約370億円と、平成29年度までの清掃工場の維持管理費約100億円を合わせた約470億円と考えられる。</p> <p>○平成23年4月からの新聞・雑誌・ダンボールの排出ルールの変更に向けて以下の取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団資源回収未実施地区の解消に向けた取組み 集団資源回収に未登録の町内会に対し、資源回収の取組状況の確認や集団資源回収への勧誘を行った結果、市内の全町内会の約98%で資源回収(小学校のPTA等による集団資源回収やちり紙交換による回収を含む。)が実施される状況となった。 ・回収拠点の拡充 古紙回収ボックスの増設【10基→18基】 エコボックスの増設【19基→25基】 西地区リサイクルセンターの開設(3/12) 【H23年3月の回収量:5,575kg】 家庭系古紙引取案内の開始 ・雑がみ分別キャンペーンの実施 平成23年4月からの新聞・雑誌・ダンボールの排出ルールの変更に向けて、ポスター掲示、広報さっぽろ、町内会回覧、テレビなどのCM、リーフレットの全世帯配布、テレビ番組などによる重点的なPR活動を実施した。 			<p>○平成23年4月からの新聞・雑誌・ダンボールの排出ルール変更の定着を図るため、引き続き、市民が新聞・雑誌・ダンボールを排出しやすい環境整備に努めること。</p> <p>○「燃やせるごみ」の約44%(平成22年度組成調査による)を占める生ごみの減量・リサイクルの推進すること。</p> <p>○篠路清掃工場跡地の利活用の調査・検討を行い、方向性を定める必要があること。</p> <p>○既存清掃工場の整備・建替計画を策定する必要があること。</p> <p>○「新ごみルール」以降の大幅なごみ減量・リサイクルの推進により、「スリムシティさっぽろ計画」に掲げるごみ量管理目標の大部分は達成となり、具体的施策の見直しや新たな数値目標の設定が必要な状況となっていること。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>○「スリムシティさっぽろ計画」に掲げた施策を着実に実施していくため、年次報告書を作成・公表するほか、札幌市廃棄物減量等推進審議会による客観的な評価を受けながら、計画の適正な進行管理に努めていく。</p> <p>○新聞・雑誌・ダンボールの排出ルール変更の定着を図るため、集団資源回収未実施地区の解消や古紙回収協力となっていないスーパーやコンビニに対し協力を働きかけるなど、身近で利用しやすい回収拠点の拡充に努めていく。</p> <p>○家庭から出される生ごみの資源化の推進と今年4月から稼働した定山溪生ごみ堆肥化施設(定山溪環生舎)の有効活用を図るため、施設の活用に適した地域(1,000世帯程度)を対象として生ごみ資源化システム実証実験を実施する。</p> <p>○篠路清掃工場跡地の利活用方法、清掃工場の整備・建替の全体計画などを含めた長期施設整備計画を策定する。</p> <p>○「スリムシティさっぽろ計画」に掲げたごみ量管理目標や個別のごみ減量・リサイクル施策の達成状況の検証を行い、数値目標や具体的な施策などの見直しに向けた検討を開始する。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		4-2-3			事業名	札幌市一般廃棄物処理基本計画の改定				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	—	—	—	—	—				
	財源内訳									
	国・道支出金									
	市の債									
予算	事業費	6,066	114,810	139,795	130,917	391,588				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
実績	事業費	4,229	115,017	155,516	133,398	408,160				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H21実績) / (計画事業費)					—			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										